



第23回

友枝昭世 巖島観月能

観

能 夜鶴

ぬえ
白頭

2019年10月11日(金)
巖島神社能舞台
(広島県廿日市市宮島町)
午後6時30分開演(午後6時開場)

月影 満ちくる潮 幽玄の美

月

【主催】
巖島観月能実行委員会
友枝昭世の会
中国新聞社

【協力】
巖島神社
喜雲会

【後援】
廿日市市
廿日市市教育委員会
(一社)宮島観光協会

【特別協賛】
積水化学工業株式会社

【協賛】
ANA クラウンプラザホテル広島

【企画運営】
FM ちゅービー

能



第二十三回 友枝昭世・巖島観月能

令和元年十月十一日(金)
午後六時三十分開演(午後六時開場)
巖島神社能舞台(広島県廿日市市宮島町)

火入れの儀

仕舞

花 筐 出雲 康雅
松 風 粟谷 能夫

地謡

狩野 祐一
粟谷 充雄
粟谷 明生
佐々木多門

後シテ(鶴の霊) 友枝 昭世
前シテ(舟人)

能 鶴

白頭

アイ(芦屋の里人) 小笠原匡

ワキ(旅の僧) 森 常好

大鼓 國川 純 太鼓 田中 達
小鼓 横山 幸彦 笛 出雲 敏弘

後見

内田 安信
中村 邦生

地謡

友枝雄太郎 粟谷 明生
粟谷 充雄 粟谷 能夫
粟谷 浩之 大島 政允
佐々木多門 出雲 康雅

終了予定 午後八時頃

◇ 鶴 (ぬえ) あらすじ

芦屋の里、洲崎の御堂で一夜を明かす僧の前に、うつお舟(大木をくりぬいて中をうつろに造った丸木舟)に乗った舟人が漂い着く。舟人は頼政に退治された鶴の亡心だと名乗り、毎夜丑の刻(午前二時)頃に黒雲となって御殿を覆い近衛天皇を苦しめていたが、頼政に射落とされ猪の早太に刺し殺されたと言った姿を消す。

読経する僧の前に鶴の亡魂が姿を現す。鶴は毎夜

天皇を悩ませたが、思いもかけず頼政の矢にあたり命を落としたことを語る。頼政はその功績で天皇から御剣を賜り、「ほととぎす名をも雲居に上ぐるかな」「弓張り月の入るにまかせて」と歌って名を上げた。それに対して、鶴はうつお舟に押し入れられて淀川へ流され、ここ芦屋の間の浮き洲に流れ着き、朽ちてゆくうつお舟の中で冥土の闇路に墜ちてしまった。そう語った鶴の亡霊は、僧の回向を頼みながら海中に消える。

チケット販売開始: 令和元年7月10日(水)



- 中国新聞社読者広報部 ☎082-236-2455 平日 9:30~18:00
- 中国新聞販売所(取り寄せ)
- チケットぴあ ☎0570-02-9999 10:00~
Pコード: 493-899 <http://pia.jp/>
- 店頭販売
セブン-イレブン/サークルK・サンクス/ぴあ店舗
- 宮島観光協会 ☎0829-44-2011 9:30~

宿泊・交通問合せ ひろでん中国新聞旅行 たび館

- 担当: 福本・住吉
☎ 082-543-2040 FAX082-543-2019
携帯: 080-6342-2719(米澤)
- 営業時間 平日 10:30~18:30
土曜 10:30~18:00 日・祝 休業